



TITLE:

# <大會抄録>ブルテルマーは誰か？ : カルカシャンディーの史書中の一 グルジア王名

AUTHOR(S):

北川, 誠一

---

CITATION:

北川, 誠一. <大會抄録>ブルテルマーは誰か？ : カルカシャンディーの  
史書中の一グルジア王名. 東洋史研究 2000, 59(3): 501-501

ISSUE DATE:

2000-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/155349>

RIGHT:

# マムルーク朝期におけるウラマーの活動

近 藤 眞 美

ウラマーとは、イスラーム諸學の知識を有する知識人のことであり、特定の職業を指しているのではない。彼らは、その知識を有するが故に、教育・司法・行政の各分野で様々な職を得た。いずれの分野も實社會との関わりが深いが、中でもカーディー職は、イスラーム法を實社會に如何に適用するかを判断するという重要なものであったと考えられる。

その重要性のため、カーディーについては既に多くの研究蓄積があるが、訴訟の處理をはじめとする彼らの活動が實際にはどのような行われていたのかについては、今後一層の研究が待たれる。

本發表では、「ウラマー」という言葉で表される廣い範圍の人々のうちでも、特にカーディー職についた者に絞って、その活動を見ることとする。具體的には、一四世紀にエジプト・シリアで活躍し、シリアでは大カーディーも務めたタキユッディーン・スプキ（*Taqiy al-Din 'Ali b. 'Abd al-Kafi al-Sabki*）をとりあげる。彼の息子が収集した彼のファトワー集（*Fatawa al-Sabki*）を中心史料として、具體的な事例を擧げて、カーディーがどのようにして訴訟を處理したのか、またどのようなファトワーを出したのかを検討したい。

# ブルテルマーは誰か？

——カルカシャンディーの史書中の  
一グルジア王名——

北 川 誠 一

グルジア王國は十二世紀後半、コーカサスの廣がりを超えてアナトリアとイランに進出し、ムスリム諸政權と戰爭狀態に入った。またモンゴル帝國に併合された一二三〇年代以降は、モンゴル軍に従って各地に出征した。このため一二—一四世紀のアラビア語、ペルシャ語文獻には、グルジア軍の對外活動に觸れるものが少なくないが、それらの中にはグルジア側文獻との對比が困難なものもある。

マムルーク朝の百科全書家カルカシャンディー（一三五五—一四一八）は、グルジアについて述べて、*BRTIMA* という強力な君主が存在していたことを述べている。グルジアでは、この人物を比定する様々な研究が試みられてきたが、發表者の私見では、この人名は *Burtel Malik* と讀まれるべきであり、今日のアルメニア共和國南部に領地を持っていたオルベリヤン家のブルテルに比定することができる。

アラビア語史料では、グルジア王（グルジア語ではメベ）をマレクと呼ぶ以外にも、諸侯（グルジア語ではエリスタヴィ等）に對してマレクと呼ぶ例があり、一二世紀にグルジアからアルメニアに移住したオルベリヤン（グルジア語ではオルベリ）家は一四世紀においてもグルジア人であるとみなされることがあったからである。